※令和３年度以前入学生用

８　芸術（書道）

学校番号	T2101

令和５年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２	年次	１～４
使用教科書	新編　書道Ⅰ（教育出版）						
副教材等	なし						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・小学校、中学校の書写の授業で学んだことを発展させて、芸術科書道では用具用材の違いによる表現の違い等を学びましょう。
・平仮名から入り、篆隷行草から楷書に至るまで様々な書体を体験し、筆の弾力を使いこなし、自分らしい文字を書くことが出来るようになることをめざします。
・身近に飾れる作品を作ることで達成感を味わい、書を愛好する心情を育てます。

２ 学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への関心・意欲・態度	b:書表現の構想と工夫	c:創造的な書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４ 学習の活動

月	題材名	学習内容・活動	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間考査まで	①書へのいざない	□書道への世界へようこそ 1. 書道の学習 2. 姿勢・執筆法を身につけよう 3. 用具・用材を知ろう 4. 調和よく書いてみよう 5. 表現の幅を広げよう	○			○	a：国語科書写と芸術科書道の関係，高等学校での書道の学習の意義に関心を持ち，意欲的に取り組もうとしている。芸術としての「書」に関心を持ち，様々な書表現を理解しようとしている。基本的な姿勢・執筆法を身につけようとしている。 b：基本的な姿勢・執筆法を身につけようと工夫している。用具・用材の用い方を工夫している。 c：各古典の字形や用筆などの特徴をつかみ，書風を生かした表現をすることができる。 d：漢字と平仮名の調和と配列・配置について理解している。基本点画や用筆の基礎を身に付けている。用筆や運筆、用具・用材の扱い方による表現の違いを理解している。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
	②漢字の書の学習	□漢字の書の世界へ 1. 古典に学ぼう 2. 楷書の古典に学ぼう 3. 行書の古典に学ぼう	○	○			a：漢字の書体の変遷に関心を持ち，理解しようとしている。様々な楷書を鑑賞し，書風の違いについて関心を持ち，理解しようとしている。 b： 各古典の字形や用筆などの特徴をつかみ，書風を生かした表現を工夫している。 c：各古典の字形や用筆などの特徴をつかみ，書風を生かした表現をすることができる。 d：漢字の書体の変遷を理解している。	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品
前期期末考査まで	仮名の書の学習	□仮名の書の世界へ 1. 仮名の基本を学ぼう 2. 仮名のリズムをつかんで連綿を書こう 3. 高野切第一種・第三種に学ぼう 4. 散らし書きの古筆に学ぼう	○	○	○		a：仮名の成立に関心を持ち，理解しようとしている。仮名の用具・用材や執筆，基本用筆に関心を持っている持ち，理解しようとしている。 b：仮名のリズムをつかんで連綿を書こうと工夫している。仮名の基本用筆のリズムを生かして，仮名の単体を書くようにしている。変体仮名を，字源やくずし方を意識して書くようにしている。 c：仮名の基本用筆のリズムを生かして，仮名の単体を書くことができる。変体仮名を，字源やくずし方	観察 レポート ワークシート ポートフォリオ 提出作品

※令和３年度以前入学生用

							を理解して書くことができる。高野切第一種・第三種を，特徴を生かして書くことができる。 d ：仮名の変遷を理解している。	
	漢字仮名交じりの書の学習	□漢字仮名交じりの書の世界へ 1. 創作しよう 2. 古典に学ぼう 3. 自分らしい表現を求めて 4. 構成を工夫しよう 5. 漢字仮名交じりの書の名筆を鑑賞しよう		○		○	a ：漢字仮名交じりの書に関心を持ち，理解しようとしている。漢字仮名交じりの書の創作に関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。古典に学び，漢字と仮名の書風や用筆を調和させて書こうとしている。 b ：古典に学び，漢字と仮名の書風や用筆の調和を工夫している。用具・用材の特性を生かして，様々な表現を工夫している。効果的に表現するため，行の長さや行間を工夫している。 c ：古典に学び，漢字と仮名の書風や用筆を調和させて書くことができる。用具・用材の特性を生かして，様々な表現を試みることができる。効果的に表現するため，行の長さや行間を工夫して表現することができる。 d ：漢字仮名交じりの書の創作の準備と手順を理解している。書き上げた作品を互いに鑑賞し合い，意見交換をすることができる。古典を生かし、漢字と仮名を調和させる方法を理解している。	観察 提出作品
後期は実施しない								

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
　　c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。